

るんびに

第八十六号

楊林山 正 光 寺

波多正文

尼崎市東大物町1-3-7
(06) 6481-3253

青葉若葉をわたる風の快い季節になりました。

平素は正光寺の護寺にご理解ご協力を賜り誠に有難うございます。

今回の『るんびに』は先月から引き続き、栖雲深泥(すくもじんてい) 師の御文章を通してのお話の二話目を紹介させて頂きます。



御文章「末代無智の章」に聞く

「末代無智の在家止住の男女たらんともがらは心を一つにして阿弥陀仏を深くたのみまいらせて…」

※無智とは智識がない、頭が悪いという意味ではありません。正確には智識ではなく、智慧がない、真実を見通す力がない、ありのままに物事を見れない私自身という意味です。

②左脳と右脳のはたつき

人間には脳が2つあるそうです。右側にある脳と、左側にある脳と2つあるのだそうです。左の脳は計算する脳、まあ一口で言えば、「コンピューター

ターみたいな働きをするそうです。そして、計算する脳ですから、「こんな事をしたら損だから止めよう」「こんな事したら得だからやろう」「俺はあいつには負けたくない、あいつより上でなければいけだ」というようなことを考えます。つまり、損は嫌で得が好きで、人より上に立つ事が好きで下になる事が嫌で、苦勞は嫌で楽は好きで、そういう計算をするのが左の脳だそうです。しかも算数は苦手でも、損か得かは、もう見事に計算する脳だそうです。

右の脳は、人を思いやるとか愛するとか、あるいは人の傷み悲しみに頷くとか、そういう心が右の脳だそうです。人を愛したり、親の事を大事にしたいという心が起こったり、昔の事を懐かしく思ったり。

例えば、故郷のことを聞けば涙が出るのは、右脳が働くのだそうです。左脳で故郷を聞いたら、「故郷を思い出してなんぼになるんや。そんなもん思いう出して、今日働いて稼がんのは損や」となるそうです。そしてその右脳と左脳がバランスよく働く事によって、人間は人間としての心を保つのだそうです。この右脳と左脳がバラバラになると、精神に異常を起こしたり、落ち着きを失ったりするのだそうです。

ところで、私の従兄弟の中にカズオ君という山口医大の脳外科医がおります。彼の話では、最近の人間は、左脳ばかりが発達しておるんだそうです。彼は亡くなった後、脳を解剖するという仕事もしておるんですけども、最近の人の脳を解剖してみると、右脳はほとんど使われていないんだそうです。つまり、いかに人間が、人を愛するとか思いやるとか悲しみとか、そういう心を失って、もう損か得か勝つか負けるか上か下か楽か苦

か、そんな計算する人間ばかりになってきたと聞かされます。

やっぱり人間はその右脳と左脳の両方バランスよくあって生きられる。そして、右脳と左脳とがバランスを失うと、今日のように引き籠もりとか自閉症とか、そういう現象が起こるということを聞きました。ですから、私もみなさんもそうですけれど、これから若い子や子供達に、もちろん勉強する事は大事やけども、やっぱり友達のことを思いやるとか、そういう事を教えていく、人間としての痛みとか悲しみ、あるいは人を愛するとか信ずるとか、そういう事を教えていかないとますます人間が崩壊していくという事を、その従兄弟からも聞かされました。

左脳は知識です。そして右脳は人間としての感性・感覚です。つまり、「常識」という言葉はもと「コモンセンス」、感性・感覚を大事にする言葉であったのに、明治の人がそれを常識と訳してしまった。その事において、人間が何たるかを見失ったのではないか、私はその様に受け止めております。人に対する優しさとか、あるいは親子、夫婦、家族同士の温かさだとか、やっぱりみんな失っておる。そして、そこにあるのは苦か楽か、損か得か、上か下か、勝つか負けるかです。

◆ 宗祖降誕会 (親鸞聖人のお誕生日)

五月十日(日) 午後二時～四時

ご講師 阿部信幾師

◆ 納骨堂永代経法要

六月十日(日) 午後二時～四時

ご講師 栖雲深泥師

◆ 正信偈を学ぶ会

毎月第三土曜日 午後二時～三時三十分